

「日本統合医療学会（IMJ）災害研修会」趣意書

【背景】

日本はこれまで多くの災害を経験してきた。今後南海トラフ巨大地震や首都直下型地震、富士山噴火等の甚大な災害が危惧されている。2011年3月の東日本大震災以降、当学会では、自治体の元危機管理監や災害医療の専門家であるDMAT(災害派遣医療チーム)等の協力を得て、学術大会での「災害と統合医療」の講演やシンポジウムを開催してきた。その中で、統合医療が防災や災害医療等、災害支援の分野で認知されていないことや、被災地での災害支援における統合医療関係者の防災や災害支援の知識やマナーの欠如が指摘されて来た。被災地は地域社会であることから、災害医療においては急性期だけでなく慢性期の災害関連死も含めた支援として「多職種連携で支える災害医療」が求められている。現在の日本の法制度下では、公的災害医療支援は、医療に係る国家資格の免許取得者に限定されている。医療に係る国家資格の免許取得者でない伝統医療や相補・代替医療従事者は、現状では公的災害医療支援に関わることは出来ない。一方では、来るべく南海トラフ巨大地震等では、防災や災害支援のマンパワー不足が懸念されている。日本防災士機構ではその対策として、地域住民を対象に最低限必要な防災や災害支援の知識やマナーの教育を行っている。統合医療関係者においても、来たる甚大な災害に備えるには、医療に係る国家資格の免許取得者及び免許取得者でない伝統医療や相補・代替医療従事者を問わず、地域住民として最低限必要な防災や災害支援の知識やマナーを身に付けることが望まれる。それは、統合医療関係者各自が災害を生き抜くためでもあり、将来、災害支援に統合医療が利活用される素地を育むことに繋がる。

【目的】

本研修では、防災や災害医療の専門家、被災地域の医療現場の視点から、統合医療関係者が、来たる甚大な災害に備えるために、地域住民として最低限必要な防災や災害支援の知識やマナーを身に付ける意義を理解することを目的とする。

【対象】

日本統合医療学会会員

【開催日時】

2023年10月28日(土)の14:00～17:00

【研修形式】

ZOOMを用いたオンライン研修会(ライブ又は講師の都合次第では、講演は事前収録)

*本研修会は当学会初の試みのため、初回は無料とする。

【プログラム】

14:00～14:05(5分)

開会挨拶:伊藤壽記(日本統合医療学会災害委員会委員長)

14:05～14:50(45分)

座長①:吉田紀子(日本統合医療学会災害委員会委員)

演題①:「防災や災害支援の知識やマナー:防災専門家の視点から」(仮)

演者①:佐藤喜久二(総合防災ソリューション)

14:50～15:35(45分)

座長②:板村論子(日本統合医療学会災害委員会委員)

演題②:「防災や災害支援の知識やマナー:災害医療専門家の視点から」(仮)

演者②:小早川義貴(本部DMAT事務局 福島復興支援室)

15:35～15:45(10分) 休憩

14:45～15:30(45分)

座長③:坂部昌明(日本統合医療学会災害委員会委員)

演題③:「防災や災害支援の知識やマナー:被災地域の医療現場の視点から」(仮)

演者③:上村晋一(阿蘇立野病院、日本統合医療学会災害委員会委員)

16:30～16:55(25分)

座長④:小野直哉(日本統合医療学会災害委員会副委員長)

受講者からの質疑応答と総合討論

16:55～17:00(5分)

閉会挨拶:小野直哉(日本統合医療学会災害委員会副委員長)